総説

高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会の活動（東京都医師会）

執筆者名（和名）　吉本一哉*，武原　格**

Driving Skills and Driving Environment in an Aging Society Review Committee activities

執筆者名（英語）Kazuya Yoshimoto* and Itaru Takehara**

所属（和名）　*吉本診療所 / 東京都医師会
**東京都リハビリテーション病院　リハビリテーション科
所属（英語）　* Yoshimoto Clinic / Tokyo Medical Association
**Dept. of Rehabilitation, Tokyo Metropolitan Rehabilitation hospital

1．緒言

令和 4 年時点で我が国の高齢者数は 3,640 万人，70 歳以上の運転免許保有者数は 1,000 万人を超えている．このように高齢運転者の増加に伴い，高齢者が引き起こす交通事故の報道を見聞きすることが増加している．高齢運転者の事故件数自体が過去 10 年間で大幅な増加をしているわけではないが，多くの人を巻き込む死傷事故や，想定外の場所での事故が多いため，報道もセンセーショナルとなっている．そしてそのすべての原因が認知症であるかのような一元的報道が多くあった．しかし，筆者は，交通事故の原因は様々であり多方面からの評価や支援、指導などが必要であると考えた．自動車を運転することで外出機会を維持している高齢者も少ないことを考慮すると，フレイルの観点からも安易に運転免許証の返納を勧めることについても少なからず疑問を持っていた．しかし，高齢者に限らず運転技能に支障を生じている場合は，自動車運転を継続すべきではないというのが大前提ではある．

これらのことを踏まえ，東京都医師会では高齢運転者等による交通事故防止対策，健康寿命の延伸と運転の関係，高齢運転者を支援するための運転環境の整備等について検討するために「高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会」を 2019（令和元）年 10 月に立ち上げた。

2．委員会の活動

委員会の委員は，高齢者や障害者等の自動車運転に関する活動をしている医療職だけでなく，関連する分野として弁護士や交通事故分析センターやカーライフの専門家など各分野で活躍している方々を人選した（表 1）．

	氏名	所属
委員長	吉本　一哉	玉川医師会 会長
副委員長	三村　將	慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
委員	武原　格	東京都リハビリテーション病院
委員	福田　敏雅	東京都眼科医会 副会長
委員	國松　志保	西葛西・井上眼科病院
委員	藤田　佳男	千葉県立保健医療大学
委員	小林　覚	エスペランサ法律事務所
委員	星野　雅弘	㈱MOTOTECA
委員	小菅　英恵	交通事故総合分析センター
委員	松浦　常夫	実践女子大学

表 1　高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会の構成メンバー

委員会の活動は概ね月 1 回開催した．新型コロナウイルス感染症の影響もあり，一時中断した時期もあったが，その後 web による会議に変更し，その後会議室と web のハイブリッド開催となった．

1 期 2 年で，現在 2 期目が終了したところであり，今後 3 期目の活動予定である．1 期目は，各分野のスペシャリストを委員会にお招きし，高齢者講習の実態や高齢運転者の事故の特徴，自動車自体の安全性の進歩，安全運転のための様々なデバイス，裁判事例，高齢運転者の心理など 委員の知識の充填を図った（表 2）．

1 回（2019.10.17）	メンバー紹介	
2 回（2019.12.19）	高齢者交通事故の現状	ITARUDA（交通事故総合分析センター）
3 回（2020. 1.16）	国の交通事故に対する事例紹介	
4 回（2020. 2.20）	高齢者講習の実際	平和橋自動車教習所 コヤマドライビングスクール
5 回（2020. 7. 2）	Smart drive について	㈱スマートドライブ
6 回（2020. 9. 3）	自動運転技術と最新動向	交通コメンテーター SUBARU
7 回（2020. 10.1）	裁判事例等	弁護士
8 回（2020. 11. 5）	高齢ドライバーの心理/認知的側面	教育心理学者
9 回（2020. 12.3）	ヨーロッパの車文化	カーグラフィック社長

表 2　　第 1 期活動内容の概要

さらに 1 期終了時点でパシンポジウムを開催した（図 1,2）．シンポジウムは、会場である東京都医師会館と web のハイブリッド形式で行われ，シンポジストの一人として，株式会社カーグラフィック代表取締役社長の加藤哲也氏にも参加頂いた．

図 1　　シンポジウムの概要

図 2　シンポジウムの様子

第 2 期は，2 つの柱を軸に活動を行った（表 3）．

一つ目は，臨床現場で働く東京都医師会会員に対して日常診療における自動車運転に関する課題や実情等についてのアンケート調査である．

もうひとつは，東京都医師会会員向けに，日常診療で遭遇する運転に関する事項について，診察の手順や評価法，指導方法などについて要点をまとめたガイドブックの作製である．

1 回（2021.9.2）	今期の方向性の検討	
2 回(2021.10.7)	高齢者における実車運転の不安全行動性 視野障害と自動車運転	ITARUDA（交通事故総合分析センター） 西葛西・井上眼科医院
3 回(2021.11.4)	ドライビングシミュレーターの活用の実際について見学	東京都リハビリテーション病院
4 回(2021.12.2)	ガイドブック作成の提案	
5 回(2022. 2. 3)	ドライビングシミュレーターについて	本田技術研究所
6 回(2022. 3. 3)	道路標識や交通システムの視覚的問題点 交通事故削減の取り組み	実践女子大学人間社会学部人間社会学科 SUBARU ADAS 開発部
7 回（2022. 4.7）	アンケート調査について検討	
8 回(2022. 6. 2)	アンケート調査中間報告	
9 回(2022. 7. 7)	ガイドブックの内容についての検討	
10 回(2022.9.1)	ガイドブックの内容についての検討	
11 回（2022.10.6）	警視庁報告・インタビュー報告	
12 回（2022. 12.1）	ガイドブックの検討・アンケート調査報告	
13 回(2023.2.2)	ガイドブックの検討	
14 回(2022.3.2)	ガイドブックの検討	

表 3　第 2 期活動内容の概要

ガイドブックの作成にあたっては，アンケート調査結果をもとに，様々な情報を盛り込んだ．具体的には，「専門医療機関情報」，「ドライビングスクール・交通安全教室」，「セーフティ・サポートカー」，「医学会の指針・ガイドライン」など，かかりつけ医として高齢ドライバーを指導，支援するための情報を掲載した（図 3）．

図 3　　東京都医師会で作成したガイドブック

３．おわりに

「高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会」を 2 期 4 年行い，「実地医家における高齢ドライバーへの指導ガイド」という一つの成果物が出来上がった．この指導ガイドは，東京都医師会会員約 1 万 5 千人のほかに、日本神経学会、日本認知症学会、日本高次脳機能障害学会等 8 学会，各道府県医師会，各道府県作業療法士会，各道府県警など日本全国の高齢者の運転に関わる機関に送付される．

自動運転などの技術により交通安全が進むことを期待したいが，高齢者・障害者の運転の問題は喫緊の課題であり，多くの人々の理解と協力が必要だと考える．そのため今後も本委員会は，東京のみならず日本の交通社会の安全に寄与するために継続活動する予定である．

利益相反
開示すべき利益相反はない．